

普及項目	増殖
漁業種類等	採貝業
対象魚類	アサリ
対象海域	熊本有明海

カキ養殖用バスケットを用いたアサリ増殖手法の検討

県北広域本部水産課・内川 純一

【背景・目的】

アサリ資源の回復を図るため、今年度は、カキ養殖用バスケットを用いたアサリ稚貝の中間育成試験を実施し、新たな手法を開発することを目的とした。調査は、網田漁協アサリ研究部会と共同で実施した。

【普及の内容・特徴】

(1) 中間育成試験（令和2年(2020年)10月～令和3年(2021年)3月）

令和2年(2020年)10月に宇土市網田地先において、網袋を用いて採取した殻幅6mm以上（平均殻長21.1mm）の稚貝をカキ養殖用バスケットに入れ干潟上に設置して、中間育成試験を開始した。バスケットには、アサリ稚貝を500個、1,000個及び2,000個ずつ収容し、密度による成長と生残率を比較した。

(2) 追跡調査の実施

試験開始から1月ごとに、バスケット内のアサリを数十個持ち帰り、殻長を測定した。また、現地においてへい死した個体数を計数し生残率を算出した。

【成果・活用】

(1) 中間育成試験結果

試験開始から5か月後の令和3年(2021年)3月には、1,000個収容のバスケットで平均殻長2.0mm、2,000個収容のバスケットでは3.1mm成長していた。また、両者における生残率はともに約99%と高い値を示した。

今回の試験においては、成長及び生残率ともに収容密度による差はみられなかった。なお、アサリ稚貝を500個入れたバスケットは、令和3年(2021年)1月に時化により流失した。

(2) 課題

今回、殻長を成長指標としたが、試験に用いたバスケットは潮流等により内部のアサリが常に揺り動かされていたため、殻長方向の成長が抑制され、殻幅方向に成長することにより、バスケット内のアサリは丸みを帯びた形状となる傾向が見られた。そのため、今後は、殻幅の測定も必要であると考えられた。

また、生残率は99%と高い値を示したことから、バスケットがアサリ稚貝の中間育成に有効であると考えられたが、気温の高い夏季に同様の試験を実施し、本増殖手法の有効性を判断する必要がある。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）



図1 アサリ稚貝選別（ユリ目）



図2 アサリ稚貝選別（ガタ選別）



図3 バスケット設置状況



図4 調査状況（殻長測定）

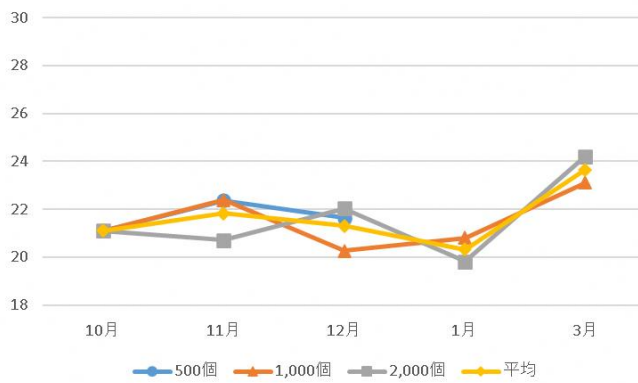


図5 平均殻長の推移

表1 令和3年（2021年）3月の生残率

収容個数	500個	1,000個	2,000個
生残率	—	99.3%	99.3%